

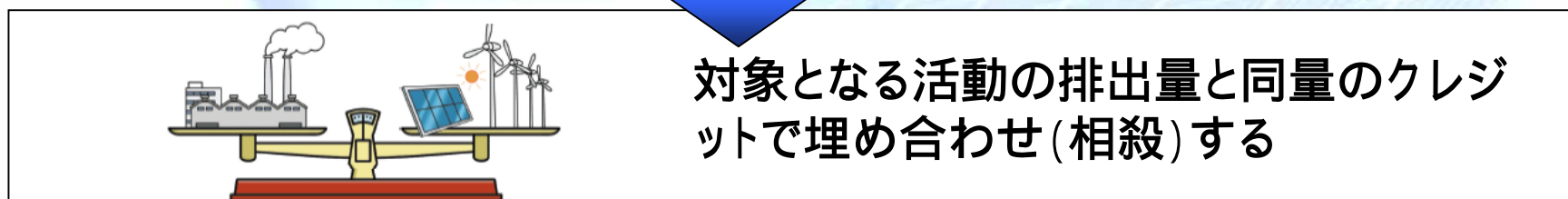
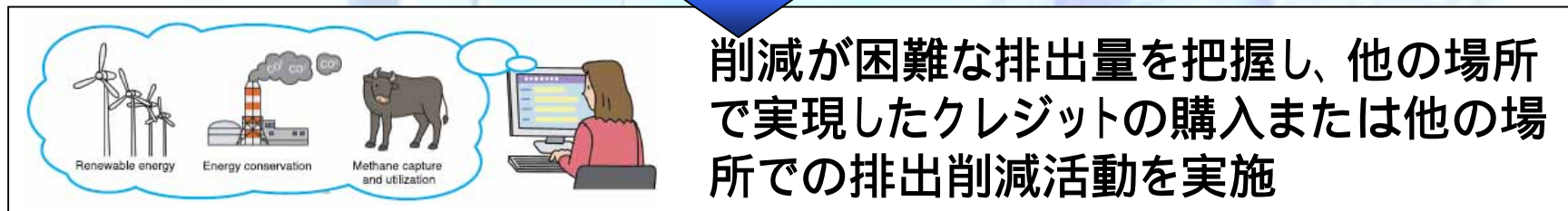
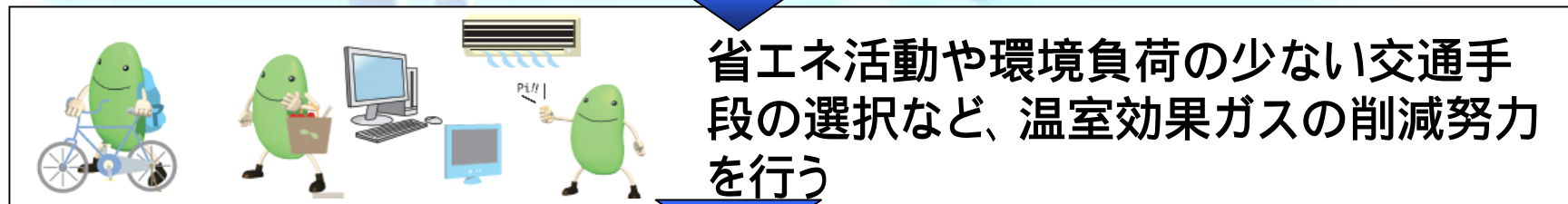
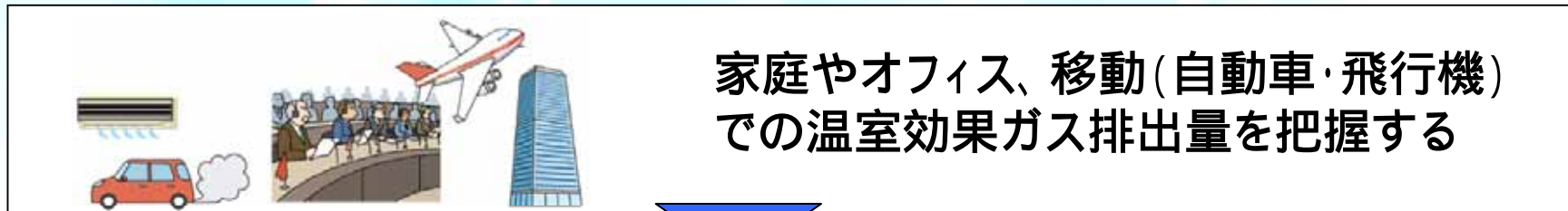
# カーボン・オフセットに関する 国内外の動向と我が国における指針 について

環境省 地球環境局 地球温暖化対策課  
市場メカニズム室長 高橋 康夫

2008年3月26日

# カーボン・オフセットとは？

市民、企業等が、自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量を把握し、他の場所でも実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等(クレジット)の購入、他の場所でも排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動の実施等により、の排出量の全部又は一部を埋め合わせる



# カーボン・オフセットの類型

市場を通じて広く第三者に流通するクレジットを活用したカーボン・オフセット

- 商品使用・サービス利用オフセット
- 会議・イベント開催オフセット
- 自己活動オフセット

市場を通さずに特定者間のみで実施されるカーボン・オフセット

# 市場を通じて広く第三者に流通するクレジットを活用したカーボン・オフセットの事例紹介(1)

## 商品使用・サービス利用オフセット

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等が商品を使用したり、サービスを利用したりする際に排出される温室効果ガス排出量について、当該商品・サービスと併せてクレジットを購入することでオフセットするもの(購入は任意)



事例：エネルギー購入の際の  
カーボン・オフセット



事例：航空機利用の際の  
カーボン・オフセット

# 市場を通じて広く第三者に流通するクレジットを活用したカーボン・オフセットの事例紹介(2)

## 会議・イベント開催オフセット

国際会議やコンサート、スポーツ大会等の主催者がある開催に伴って排出される温室効果ガス排出量をオフセットするもの  
(費用は主催者又は参加者が負担)



コンサート等でのカーボン・オフセット  
事例: ap fesコンサート



国際会議等でのカーボン・オフセット  
事例: グレンイーグルスG8サミット

洞爺湖サミット及び関連会議もオフセットする予定



イメージ写真:  
[http://blog.so-net.ne.jp/\\_images/blog/\\_83a/esperanza/8269538.jpg](http://blog.so-net.ne.jp/_images/blog/_83a/esperanza/8269538.jpg)

スポーツイベント等でのカーボン・オフセット  
事例: FIFA W杯ドイツ大会

# 市場を通じて広く第三者に流通するクレジットを活用したカーボン・オフセットの事例紹介(3)

## 自己活動オフセット

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等が、他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトからのクレジットを購入することで、自らの活動に伴って排出される温室効果ガス排出量をオフセットするもの(費用は基本的に市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等が自己負担)

自社ビルからの温室効果ガス排出量をオフセット  
事例：東京三菱UFJ銀行



自動車利用の際の  
温室効果ガスをオフセット



日常生活からの温室効果ガスをオフセット  
例：一ヶ月の電気料金のCO2換算分



# 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方に関する指針について

- 2007年9月からカーボン・オフセットのあり方に関する検討会を開催(全5回)
- 指針の内容についての意見募集を経て、2008年2月7日に「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(指針)」を公表
- 現在、カーボン・オフセットに関する情報交換や相談・受付等を行う、プラットフォーム創設に関するアンケートを実施中

# カーボン・オフセットの意義・効果

- 市民、企業等の主体的な削減活動の実施を促進
- カーボン・オフセットの取組を通じて温室効果ガスの排出がコストであるという認識を経済社会に組み込み、「見える化 自分ごと化 削減努力 埋め合わせ(オフセット)」という流れを作り出すことで、ライフスタイルや事業活動の低炭素化に向けた主体的な取組への契機となる
- 地球環境問題や、日本の京都議定書に基づく目標達成に関心を有する市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の構成員が自ら貢献する機会を提供する
- 国内外の温室効果ガスの排出削減・吸収や公害対策、持続可能な開発を実現するプロジェクトの資金調達への貢献となる

# カーボン・オフセットの課題

- 市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等に対し、広くカーボン・オフセットの取組に関する認識の向上、取組の促進
- カーボン・オフセットの取組に関する情報の幅広い共有と関連市場の育成
- カーボン・オフセットの取組に対する信頼性の構築

オフセットの対象活動に伴う排出量の算定

オフセットに用いられる削減・吸収量(クレジット)の確実性・永続性・正確性

オフセットに用いられるクレジットのダブルカウント

オフセット・プロバイダーの活動の透明性の確保

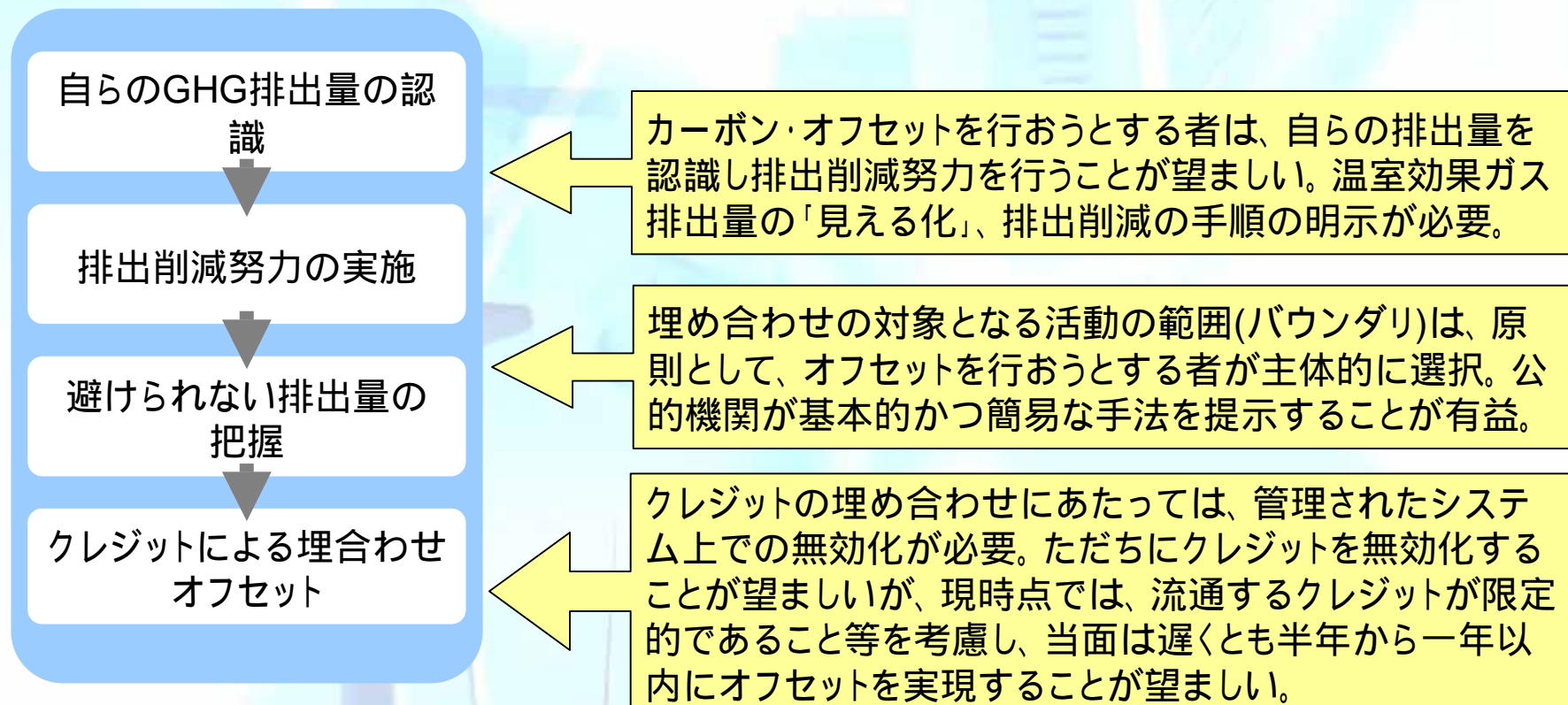
オフセットが、排出削減を行わないことの正当化に利用されるべきでないとの認識の共有

# 指針策定の目的

- 1. カーボン・オフセットに関する考え方を整理、理解の普及**
  - 「見える化 自分ごと化 削減努力 埋め合わせ」を分かりやすく整理する
- 2. 民間の活力を生かしたカーボン・オフセットの取組の促進と適切かつ最小限の規範の提示**
  - 市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の積極的な取組や創意工夫を促し、健全で安定したシステムを形成する
- 3. カーボン・オフセットの取組に対する信頼性の確保**
  - オフセットの対象となる排出量の算定
  - 排出削減・吸収量の確実性や永続性
  - オフセットに用いられるクレジットのダブルカウント
  - 取組の透明性
- 4. カーボン・オフセットの取組を促進する基盤の確立**
  - クレジットの第三者検証システムの構築
  - 埋め合わせ(オフセット)の手続
  - クレジットのダブルカウントを防ぐための管理簿(レジストリ)の整備
  - カーボン・オフセットの実施に際しての透明性の確保
  - カーボン・オフセットを実現する商品・サービスの認定システムの構築

# カーボンオフセットのあり方について(指針)(1)

## カーボン・オフセットの基本的要素



### 【カーボン・オフセットの種類】

市場を通じて広く第三者に流通するクレジットを活用したカーボン・オフセット

- ・商品使用・サービス利用オフセット
- ・会議・イベント開催オフセット
- ・自己活動オフセット

市場を通さずに特定者間のみで実施されるカーボン・オフセット

# カーボンオフセットのあり方について(指針)(2)

オフセットの取組について第三者機関による認定を受けていることが望ましい  
その第三者機関による認定を受けたサービス・商品・イベント等は認定を示すラベリングを行えるようにすることが望ましい。  
公的機関による認定基準やラベリングのあり方について検討・策定が必要。

クレジットは、排出削減・吸収の確実性・持続性、同一のクレジットが複数のカーボン・オフセットの取組に用いられないこと等の一定の基準を満たしている必要がある。  
使用できるクレジットは京都議定書に基づいて発行される京都メカニズムクレジット、環境省が2005年から実施している自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)、上記の一定の基準を満たすVER (Verified Emission Reduction) 等

公的機関の  
排出量算定  
サービス

民間の  
第三者機関

サービス・商品を提供  
する企業のプロセス

クレジットをサービスに  
付与して販売

オフセット  
プロバイダー

クレジット

商品・サービス  
の購入

信頼性確保のためには、透明性の向上、消費者に対する十分な説明が必要。公的機関が透明性の確保に関する基準を整備

民間の  
第三者機関

カーボン・オフセットに用いられる同一のクレジットが複数の取組に用いられないことを確保するため、公的機関が登録簿等の必要な基盤整備を実施

# オフセットに使用するクレジットの種類

## <クレジットの種類>

- 京都メカニズムクレジット-京都議定書に定められる  
手続に基づいて発行されるクレジットであるAAU、  
ERU、CER、RMUの4種類
- 自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)で用い  
られる排出枠
- V E R (Verified Emission Reduction)
  - 京都議定書、EU域内排出量取引制度等の法的  
拘束力をもった制度に基づいて発行されるクレジット  
以外のクレジット

# 我が国におけるカーボン・オフセットの取組に対する支援



イメージ写真：  
<http://www.miyarune.jp/entaku/outline/>

## 情報交換の場となるプラットフォームの設立

カーボン・オフセットに関する正しい理解を普及するとともに、カーボン・オフセットの取組を行いたい者との間の情報交換やマッチング、カーボン・オフセットの取組に関する相談・支援等を行うカーボン・オフセットに関するプラットフォームを創設する。



イメージ写真：  
[http://www.city.fuji.shizuoka.jp/cityhall/kankyo-b/k\\_seisaku/energy/zero/index.htm](http://www.city.fuji.shizuoka.jp/cityhall/kankyo-b/k_seisaku/energy/zero/index.htm)

カーボン・オフセット事業モデルの公募・表彰  
市民、企業等の生活や事業活動のさまざまな場面にカーボン・オフセットの取組が広まるよう、さまざまなアイデアを公募し、市民、企業等への広がりが期待できる、主体的な削減活動の実施促進に効果がある等の優れたモデルを表彰するとともに、具体的な取組に関するアイデアを広く共有する。

## (カーボン・ニュートラルの推進)

さまざまな主体が自らの活動に伴う温室効果ガスをすべてオフセットすることによりカーボン・ニュートラル(炭素中立)を目指す主体的な取組を促進することにより、カーボ・オフセットの取組を広く浸透させる。

# オフセットへの批判(海外事例)

- **オフセットが排出削減につながっていない**

例) HSBCは、2005年にカーボンニュートラルをオフセットにより達成したと発表した。実際の排出量は2004年の585,000 t-CO<sub>2</sub> から2005年には663,000 t-CO<sub>2</sub>に増加

- **オフセット対象のGHG排出量算定方法**

例) Tufts Climate Initiativesの調査によると、ボストン～ワシントンDCまでのフライト(往復)によるGHG排出量を算出させたところ、0.19～0.44 t-CO<sub>2</sub>の差があった

- **オフセットプロバイダーの信頼性**

例) **ダブル・カウンティング**: VER市場では国際的に統一されたレジストリが存在しないため、例えばCERとして取引されたクレジットが、VERとしてもクレジットになり得る

例) **透明性**: プロバイダーが提供するオフセット商品がどのような種類のクレジットにより構成されているか、購入金額のうちプロジェクトに支払われた金額と管理費用との内訳といった情報は消費者には提供されない

- **クレジットの品質**

例) **永続性**: Cold Play(ロックバンド)はアルバム制作・流通で排出されるCO<sub>2</sub>を、The Carbon Neutral Companyを通じてインドでの植林プロジェクト(1万本のマンゴーを植栽する)でオフセットしたと発表した。実際には植栽された樹木の約40%が管理不足で枯死

例) **追加性**: Sky(英国メディア)は、2006～2007年の事業所等から45,000 t-CO<sub>2</sub>のクレジットをThe Carbon Neutral Companyを通じてブルガリアの再生可能エネルギープロジェクトに投資すること等でオフセットしたと発表した。このプロジェクトは、Skyが投資する前からSofia銀行が投資していたプロジェクトであり、プロジェクトへの資金的な追加性が問題視された

# 各国のガイドライン策定状況

- 英国政府のオフセットガイドライン
- フランス政府のオフセットガイドライン
- 米国政府のオフセットガイドライン
- 日本のカーボン・オフセットに関する指針

# 英国政府

## DEFRA (環境・食料・地域省)

2008年2月にオフセットプロバイダー認定ガイドライン(案) *Draft Code of Best Practice for Carbon Offset Providers*を公表。現在パブリックコメントを受付中。

### 【目的】

オフセット商品が環境保全に貢献するという消費者への信頼と十分な説明の提供  
英国のオフセットセクターに向けたオフセット商品の品質と望ましい認証の取得の  
呼びかけ

認証を受けたオフセット商品の普及により、消費者のオフセット商品の購入意欲と  
その支出への信頼性の増加

消費者のオフセットと気候変動への理解の促進

### 【ガイドラインのポイント】

オフセットに用いるクレジットは京都クレジットに限る(今後、VERについても良質な  
基準が開発されれば認めていく方向)

使用したクレジットは6ヶ月以内に調達し、取得後5日以内にキャンセルする

認証機関は、ガイドラインに基づきウェブサイトの管理や品質マークを付与し、年  
次報告書で活動情報を報告する

オフセット商品を販売するプロバイダーは、事前に政府の認定を受けなければなら  
ない。

# フランス政府 ADEME (環境・エネルギー管理庁)

2008年2月にオフセットガイドライン *Charte de la compensation volontaire des émissions de gaz à effet de serre* を公開

## 【目的】

共通の基準 (共通の定義、データベース、測定方法、透明性のあるプロセス) に基づくオフセットプログラムの構築

個人、企業、地域向けにボランタリーオフセットの効果とその仕組みの情報を提供する

フランス政府が、国内で活動するオフセットプロバイダーの参加を募り、プロバイダーのサービスや提供するプロジェクト情報といった、透明性や情報の比較を可能にする

## 【ガイドラインのポイント】

京都クレジット、VER双方を認めるが、フランス国内で実施するプロジェクトは、ナショナルインベントリとのダブルカウティングとならないものであること。

オフセットに用いたプロジェクト情報を環境省のウェブサイトで公開しなければならない。

排出削減量は、フランス環境・エネルギー管理庁が提供する測定方法に基づき測定しなければならない。

## 米連邦取引委員会 (FTC)

2008年1月から、ワークショップを開催し、オフセットに関するラベルや広告のガイドラインの議論を開始

### 【目的】

既存のガイドライン *Guides for the Use of Environmental Marketing Claims* (通称グリーンガイド) にオフセットやグリーン電力証書が含まれていないため、これらを含めたガイドラインの改定

### 【ガイドラインのポイント】

策定中

# ご静聴ありがとうございました

## 環境省ウェブサイト カーボン・オフセット

[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon\\_offset.html](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset.html)

## ガイドライン英語版

*Establishing Guidelines for Carbon Offsetting in Japan (Public Consultation on Draft Guidelines)*

[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon\\_offset/pamph1/full.pdf](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset/pamph1/full.pdf)